

第3回定例会

5名の議員が理事者の考えを質しました。

・一般質問

一般質問



加賀屋 修 議員

町道の改良整備の推進について

中園41号道路の整備が

必要ではないのか！

町長へ公営住宅の新築、解体に伴って

町道の改良工事も計画中である。

【質問】

町道中園41号道路のうち、国道333号より佐呂間別川築堤までの道路延長は、275m、幅員は4mで、この道路区域沿いには公営住宅、歯科診療所、保育所などの公共施設があり、冬期間には佐呂間別川への排雪道路として使用されている地域の生活道路であります。

この町道は、道路途中まで舗装されていますが、その舗装についても年数を経過し、相当な傷みを生じています。何より道路側溝がないことで、雨天後や春の雪解け水の冠水など、生活道路として支障をきたしていますが、町長はこのような現状に対し、道路の整備をどのように対処し



若佐歯科診療所へつながる町道中園41号道路

ていくのかお聞きします。

【答弁】(町長)

本町の町道は全体で32.2km、路線数277路線で、うち舗装率が51.5%となっています。住宅が張り付いているところや農地などの重要な路線として位置付けている1、2級道路については、延長14.55km、舗装率は

68.7%です。

町道の補修計画については自治会の要請などにおいて路面排水の不整備な箇所、凍土の著しい箇所、舗装の痛んでいる箇所など、優先順位を定めて10カ年計画の中で施工しています。

ご指摘の町道41号道路については、新しい公営住宅の完成をみて、古い公営住宅の解体に伴って町道の改良工事を計画中で、国道に付帯する急勾配も改善したいと考えています。

【質問】

この地域の出入り口は、1日3500台ほどの通行量がある国道333号に面して1箇所の町道ですが、地域の公共性、万が一の災害時などのため2箇所の出入り口と、信号機の必要性もあると思いま

新しい公営住宅を建設中の

若佐保育所入り口道路



すが、いかがでしょうか。

【答弁】(町長)

ご指摘のとおり、出入り口は2箇所の必要性を考慮し、中途半端な舗装ではなく、今後の地域を考慮して改良整備を計画しております。

信号機の設置につきましては、400m離れた若佐小学校前に設置されているので、新たな信号機の設置は大変な労力も承知の上で公安機関に要請をしますが、まずは町道の出入り口に交通抑止の標識を取り付けることを念頭に入れながら、改良工事に取り組みたいと考えています。

第3回定例会

・一般質問



安田 一彦 議員

網走、紋別沖の地震、津波の防災対策は！

町長へ各自治会と協議し、要援護者の避難支援も含め、検討していきたい。

網走、紋別沖想定震源地による 佐呂間町の地震、津波の防災対策について

【質問】

網走、紋別沖に海底活断層があり、「大規模地震、津波がないとは言えない」と北海道新聞にて報道がされたが、町は詳しい情報を持っているのか、どのような状況を想定し、どのような注意が必要か、町を伺います。

【答弁】（町長）

新聞報道は、道がオホーツク海沿岸の津波被害を想定し作成した、津波浸水予想図について、3月に説明会で各市町村に示した内容を、6月11日の新聞に出したものです。網走、紋別沖には海底活断層が確認され、マグニチュード7～8の地震発生時には、

本町3漁港に30分から60分程度で津波が到達し、津波高で1m20センチ程度とされ、道においては24年3月を目標に新たなものを作成し各町村に示すことになっていきます。町には情報としては、平成23年3月に示された内容のものはありません。

【質問】

網走、紋別沖地震、津波を想定した中で各自治会に対して適切な避難場所への指示と子供、高齢者、寝たきりの人、歩行困難な人、車の運転のできない人等をどのように避難させるのか。避難方法に沿った避難訓練の実行が必要だと思えます

が、町の考えを伺います。

【答弁】（町長）

今年度中にサロマ湖沿岸3自治会での避難訓練等を考え、自治会役員と会議を行ったが、訓練の必要性は認識しつつも、本年度中に訓練を実施するとの結論には至っていない現状です。

自治会に防災意識の機運も出てきており、伝達訓練や要援護者の避難方法等を含め、今後積極的に関わっていきたいと考えます。

【答弁】（総務課長）

自治会との協議の結果を受け、お互い情報を共有し合い犠牲者を出さない対応を考えるのが基本と考えます。

【質問】

津波が発生した場合、サロマ湖における結氷期、非結氷期に予想される状況、データ

等を町は持っているか伺います。

【答弁】（町長）

データは持ってませんが、洪水ハザードマップを作成した会社に、シュミレーションができるか打ち合わせたいと考えています。

【質問】

町単独では無理だと思うので、オホーツク沿岸全体の問題として町村会等を通じ国政レベルでのシュミレーションを行うよう要請してはどうかと考えるが、町長の考えを伺います。

【答弁】（町長）

洪水ハザードマップを作った所と相談して、町村会も動かしながら進めたいと思います。

【質問】

避難方法は、町が一方的に作るのではなく、地域住民の意見を聞き作成してもらいたいが、町の考えを伺います。

【答弁】（町長）

各自治会と十分協議を行いながら策定したい。避難場所の標高を示す図面を作成し、各自治会に配布します。

また一時避難場所や携帯電話のエリアメール発信も検討したいと考えており、できるものから優先的に進めていきます。

第3回定例会

・一般質問



佐藤 昭男 議員

町内産業後継者等の

花嫁対策が必要では！

町長「今後とも関係機関等と連携し、出会いの場として魅力ある企画を講じたい。」

町内産業後継者等の花嫁対策について

【質問】

町内の人口減少は長年の課題であります。

少子化対策や老人対策などいろいろな取り組みをされてきていますが、今後、産業後継者の花嫁対策について抜本的な支援策が必要になると考えますが、町長の考えをお伺いします。

【答弁】（町長）

ふるさと佐呂間町で農業を続け、生活をし、子育てをし、農業を継承していつてもらい、エンドレスに展開する農業を考えたととき、その後継者対策は、しっかりやっていかなければならない重要な課題だと考えておりますし、また後継者の定着を図る上で、この花嫁対策も重要な一つだと考えております。

農家及び農業後継者のうち独身者、年齢が20歳から40歳まで約30人程度おられると聞いています。

後継者の花嫁対策につきましては、なかなか1町単独での取り組みは限界もあることから、近隣町村と連携し、京都での交流を中心に活動を現在進めています。

けれども一長一短に解決する方策は、なかなか見出せない現実もあります。

今後とも農協をはじめ関係機関と連携し、また近隣町村とも連携を図りながら、まずは、出会いの場に多くの方が参加をしていただけるよう魅力ある企画を講じ、効果があるように一層努力してまいりたいと考えておりますので、

ぜひご理解を賜りたいと思います。

【質問】

平成4年から7年の間に、専門委員さんを設けていたのですが、今後は企画課でソフト事業を立ち上げてみてはいかがかなと思うのですが、どうでしょうか。

【答弁】（町長）

今私は、農業の話だけだったのですけれども、漁業、商工業の後継者の中でも相当いらっしゃいます。

こういう方々を網羅しながら関係機関がじっくり議論して、早い機会にまず一回皆さんが集まって懇談できるような対応を含めて検討してまいりたいと考えていますので、前向きな部分でがんばらせていただくということで、ご理解を賜りたいと思います。

第4回定例会は12月に開催されます!!

日程の詳細は、町広報12月号の折込みチラシをご覧ください。



第3回定例会

・一般質問



但木早苗議員

子ども医療費の無料化について

【質問】

乳幼児医療全国ネットによると内閣府少子化に関する子育て女性の意識調査では、少子化対策として重要と考えているものの中に、経済的支援措置が70%近くとトップで、その内容については、子どもの医療費の無料化をあげた女性が45.8%に上ったということです。

さて、子どもの医療費の無料化については、道の基準に上乘せをし、独自に拡大を実施している市町村が増えつつあります。通院費の無料化については、中1から中3まで拡大している所が26箇所あり、今年度に入ってから津別町や鶴

子どもの通院費の無料化は対象年齢を拡大しないのか！

町長へ通院費の無料化については、中学生までの拡大を検討中である。

川町などが拡大し、着実に広がっていると思われまます。ところが佐呂間町は、入院

については中学3年までの無料化を早く実施したものの、通院については依然として道の基準の就学前のままです。

通院の無料化の年齢引き上げを、子育て支援という立場から求めたいと思いますが、町長の考えをお伺いします。

【答弁】（町長）

通院医療費の年齢を中学生まで引き上げた場合、道の補助金200万円を除くと約千4百〜5百万円の一般財源が必要になります。

しかし私も中学3年生までの通院無料化をやりたいと考えておりまして、その財源を含め、明年4月に向け前向きに検討させていただくというところでご理解ください。

特定健診について

【質問】

国保加入の40歳から74歳までが対象となる特定健診ですが、受診率が上がらないというのが町の現状だと思います。

昨年度の受診率が24%、このまま低い水準が続くと保険者である町に国からペナルティが課せられ、国保税の値上げにつながることも考えられます。

病院に行き、検査もしているから受診しない、ということとが受診率向上に大きく影響しているのだとしたら、この方たちをカウントできる体制づくりを医療機関と連携を取りながらやっていく必要があると思えます。

受診率を上げるため、更な

る取り組みが町として必要と考えますが、今後、どのような取り組みを考えているかお伺いします。

【答弁】（町長）

本町の特定健診の受診率については、増加傾向にはあるものの、22年度は27.4%で、目標の65%にはほど遠い現実にあります。

24年度について特定健診の強化と位置づけ、これまでに以上継続していく考えです。

受診料は、今は1500円負担して頂いていますが、来年度から節目年齢の無料化を検討していますし、人間ドックなどの受診データを国保にもらい、この健診がクリアできないかということも現在考えています。

また、病院へかかっているデータも、この特定健診の中に取り入れて、保健師の対応につながるようにもしていきたいと思っております。

なお、24年について、保健師1名の増員を図りながら、取り組んでいこうと考えています。



第3回定例会

・一般質問



三田真美議員

町民の防災意識を高める対策は！

町長／防災意識の高揚には、

町内会ごとの防災組織の確立が必要。

防災について

【質問】

安心な町づくりをするために、防災対策のあり方を根本的に見直すために、町民に防災、減災の意識を高めていただくこと、更に学校での防災教育について今以上の学習機会が必要であると考えます。災害が起こったとき、避難をする周知の仕方をどうするのか？また、避難所になっている学校の対応マニュアルはあるのか、防災会議などに出席し、他の関係機関と協議しているのか伺います。

【答弁】（町長）

防災意識の高揚については町内会ごとの防災組織の確立が必要と考えますが、来年に向け自主組織を立ち上げたいという町内会もあります。

町民への災害時の周知は基本的にサイレン等で行いま

すが、水害など、避難までの時間があるときは、一戸一戸回って避難を呼びかけることも必要だと考えています。

【答弁】（教育長）

従来までは、火災に対する訓練が主でしたが、地震や津波に対する避難訓練を行うよう指示しており、それに伴い防災教育にも力を入れて対応していただくよう指示しております。

【答弁】（副町長）

学校にはマニュアルはなく職員が出向いて対応する体制であります。また、防災会議には学校の先生は入っていないことから教育委員会と学校で協議し、マニュアルを作成し実施していきたい。

【質問】

放射能測定器はあるのか？

【答弁】（副町長）

本町にはないが、10万円程度なので検討してみたい。

防犯について

【質問】

町の公共施設のセキュリティは万全とは言えませんが、防犯カメラなどは設置していかないのか？

また、街灯も通学路など十分とは言えないと思うが、防犯という観点から町民の安全確保ができていいのか伺います。

【答弁】（町長）

公共施設の管理状況は現時点、問題ないと考えますが1名体制での勤務については、きめ細かな対応を取るよう指示しております。

街灯については、問題があれば現在は自治会や町内会から連絡が来るといふ体制ですが、全部一度点検して子供の安全確保をしていきたいと考えています。

【答弁】（教育長）

防犯カメラは、現段階での設置は検討していないが、必要であれば考えていかなければならないと思います。

佐呂間高校の支援について

【質問】

佐呂間高校は地元根付いた高校であり、開放講座など広く町民にも親しまれている学校です。

来年度の中学卒業生が少ないことから、一問口が続く予想がされます。本町としても、地元の学校に支援をすべきと思いますが？

【答弁】（教育長）

佐呂間高校は100キロマラソンの支援、開放講座などで協力をいただいております。地域にとつて、なくてはならない学校と認識しています。

町としては、ふれあいバスにより定期代の負担をなくしたり、部活動バスで利便を図っておりますし、P・A市の交流助成や高体連総体などの全道大会出場には経費の助成をするなど、いろいろな支援に努めています。

これからも要望があれば、部活動にかかわる支援なども考えていきたいと思えます。